

大障教ニュース

大阪府立障害児
学校教職員組合
大阪市天王寺区
東高津町7-11
府教育会館704号
TEL 06-6765-8904
FAX 06-6765-8905

府立支援学校の教職員の抜本的な増員を

府教委に要望書を提出

8月23日(金)、大障教は教育長あてに、各分会で集約した「府立支援学校の教職員増に向けて、教職員の抜本的な増員を府独自でおこなうとともに教職員定数法の改善を文科省に対して要望することを求める」要望署名、1234筆を提出しました。教育委員会からは、支援教育課、教職員人事課の担当者が出席しました。署名の要望項目は、「1. 教職員の抜本的な増員を大阪府独自でおこなうこと ①教員の増員をおこなうこと ②栄養教員を複数配置すること ③すべての看護師を定数外で配置すること 2. 大阪府として、文科省に教職員定数法の改善を要請すること」です。

最初に、西面委員長から署名の主旨を説明し、署名の手交をおこないました。そのあと2分会(寝屋川支援分会、茨木支援分会)と栄養教員部から現場実態と「教職員増」の切実な要望を訴えました。署名の「協力ありがとうございました」。

子どもたちのために府独自で教員の加配を

寝屋川支援分会の樋口さんからは、「今年度、全校児童生徒数が398人となった。教員配置については、



各分会から集約した要望署名を提出する西面委員長

「義務標準法※」のもと、児童生徒の増加に応じた教員増とはなっていない。北河内地域では、交野支援学校四條巖校の本校化が決定したが、2029年度の予定。子どもたちのために、学習環境の整備と児童生徒数に見合う教員配置を」と知的障害支援学校の切実な要望を訴えました

「※教職員定数法(義務標準法)では、学校の大規模化がすすみ、小中学校において学級数が増えるほど教員の配置率が下がります」。

一人ではもう限界！栄養教員の複数配置を

栄養教員部の益田さん(茨木支援分会)からは、「年々、栄養教諭の職務は増大し、多忙化している。食物アレルギー対応は年々複雑化し、対象児童も増加、また、献立作成や物資選定、発注業務のすべてを一人で担い、さらにすべての加工食品のアレルゲンのチェック、個別の献立表のチェック、決してミスを許されない業務も行っている。個別の相談指導では、支援学校において専門的な知識が必要とされる。複数配置されることで、安全安心の給食提供につながる。業務量を把握して、複数配置をすすめてほしい」と、ほぼ民間委託化されている支援学校において、一人職種では困難な状況を訴えました。

府独自の施策として、

定数外で常勤看護師の配置を

茨木支援分会の樋口さんからは、「本校では、医療的ケアを必要とする児童生徒が年々増加している。さらに、人工呼吸器など高度化する医療的ケアの対応、校外学習・泊学習等にも看護師の付き添いが必要であり、ケース会議の出席など常勤看護師の必要性が高まっている。教員も年々担任数を減らして運営し、さらに常勤講師が見つけられず非常勤講師で対応している。教員の人数をふやし、定数外で常勤看護師を配置できるように検討してほしい」と訴えました。今年度は、府立支援学校全体で35人の教員定数を看護師定数に振り替えて配置しています(35人の内訳は、「常勤看護師」が31人(11校)、「非常勤看護師」が4人(4校に8人配置)です)。

「標準法」を改正して、教職員定数増を

8月27日、中央教育審議会(中教審)は「『令和の日本型学校教育』を担う質の高い教師の確保のための環境整備に関する総合的な方策について」を答申しました。教職員の定数増については、基礎定数改善を先送りし、加配定数の改善にとどめ、教育予算の大幅増を求めています。そもそも教職員定数が満たされていても業務量に対して教職員が不足している現状において、「標準法」改正による基礎定数の改善が最優先されるべきです。「答申」は、「審議のまとめ」にわずかな修正を加えただけです。

大障教は、教育予算を増やして、教職員定数増を実現すること、実際に生じた時間外勤務に対して手当を支給できるように給特法を改正し、長時間労働に法的な歯止めをかけることを一体的にすすめることを引き続き求めています。

大障教ホームページアドレス <http://fc06631220171211.web2.blks.jp/> Eメールアドレス : fushoukyou_1@ntb.biglobe.ne.jp



9月17日は中秋の名月。仙台市天文台のHPには、「旧暦の8月15日の夜(十五夜)に見える月を『中秋の名月』と呼び、2024年は9月17日がその日にあたります。今でも十五夜の月として親しまれ、この頃に収穫される里芋をお供えすることから、地方によっては「芋名月(いもめいげつ)」とも呼ばれています。」と記載されている。

中秋の名月と言えば、「団子」と「すすき」が思い浮かぶ。団子は、前出の「里芋」に形が似ていることから、その代わりになった。「すすき」は、供え物によく使われる稲穂の代用らしい。

「すすき」と言えば、関西では砥峰、曾爾、生石の高原が思い浮かぶ。砥峰、曾爾高原の駐車場は一定の広さがあるが、生石高原のそれは狭い。ハイシーズンに車で訪れる場合は、渋滞の可能性がある。

砥峰高原は、映画「ノルウェイの森」のロケ地になっており、その看板が立っている。私はそれに関心がないので、現地で看板を見て興ざめたことを覚えている。

曾爾高原は、近鉄電車の車両内広告になっている。そのふもとには、「お亀の湯」と言う重曹成分を多く含んだ温泉があり、曾爾高原(バイクツーリング)に出かけた時は、定番の温泉ではないか。

3つの高原で、私が一番好きなのは生石高原。「すすき」の密度と囲まれ感も良いが、パノラマの景色が好きなのだと思う。火上げ岩(ひあげいわ)は、「映えスポット」として紹介されている。

さて、今年も支援学校では「月見」を題材にした教材が準備され、「みる・きく」や「せいかつ」「そつごう」の授業で展開されているのかな。



ベテランへから学び、交流しました!

ろう学校4校交流新歓学習会

5月22日、ろう学校4校交流新歓学習会をおこないました。週半ばの水曜日にもかかわらず、新しくろう学校に

来られた3名の先生方をはじめ、24名の参加がありました。

今年度は、各校のベテランの先生方から、お話をいただきました。

経験の長い先生方からは、ろう学校愛、聴覚障がいのある生徒への愛にあふれていて自分たちもがんばらなくては!と思えました。

ろう学校4校からは寄宿舎についての話を伺いました。藤田先生からは、長年の進路指導のご経験の中で、卒業生の事例から考えてこられたことをお聞きしました。事例からの気づきや学びの大切さ、「ネガティブをポジティブに」

近山先生からはろう学校に勤務を始めてから大切にされてきたことなど先生の温かいお人柄が感じられるお話

でした。授業を楽しくをモットーにやってこられた数々の実践のお話から、今後のろう学校が抱える問題まで、ろう学校に勤める私たちが忘れてはいけないことをあらためて考えさせられました。

近山先生からは子どもたちがいきいきと過ごす寄宿舎の様子をお聞きしました。中央聴覚だけではなく、他のろう学校からもたくさん生徒がお世話になっている寄宿舎は、大阪のろう学校4校にとつてなくてはならない存在だとあらためて感じました。3人の先生方のお話からは、生徒によりそう気持ちを強く感じ、自分の生徒との関わりを見直すよい機会となりました。

近山先生からはろう学校に勤務を始めてから大切にされてきたことなど先生の温かいお人柄が感じられるお話

でした。授業を楽しくをモットーにやってこられた数々の実践のお話から、今後のろう学校が抱える問題まで、ろう学校に勤める私たちが忘れてはいけないことをあらためて考えさせられました。

近山先生からは子どもたちがいきいきと過ごす寄宿舎の様子をお聞きしました。中央聴覚だけではなく、他のろう学校からもたくさん生徒がお世話になっている寄宿舎は、大阪のろう学校4校にとつてなくてはならない存在だとあらためて感じました。3人の先生方のお話からは、生徒によりそう気持ちを強く感じ、自分の生徒との関わりを見直すよい機会となりました。

近山先生からは子どもたちがいきいきと過ごす寄宿舎の様子をお聞きしました。中央聴覚だけではなく、他のろう学校からもたくさん生徒がお世話になっている寄宿舎は、大阪のろう学校4校にとつてなくてはならない存在だとあらためて感じました。3人の先生方のお話からは、生徒によりそう気持ちを強く感じ、自分の生徒との関わりを見直すよい機会となりました。



「よく話しくよく笑う」を第一歩に 泉南支援分会 藤田洋城さん



連載一回め、トップバッターにご指名いただき光栄です。分会長になりましたが、積極的に集会に参加したり意見をしたり、という活動はまだまだできていません。それでも日頃から心がけていることは「よく話しくよく笑う」ことです。業務に追われる毎日、他愛のない会話が場が和み、フツと誰かが笑顔になることが、働く環境が良くなる一歩だと思っています。些細なことですが、私なりの組合活動、組織拡大のための活動です。

若手教員の相談にもものってあげたい、と思っていますが…全く相談はきません。高校時代に「相談されなさそうな人ランキング」という、今思うと失礼極まりないランキングの上位に入るくらいだったので、コイツにだけは相談したくない!と、思われているのかもしれませんが(笑)

連続講座 第1回 発達学習会 ~発達がわかれば、子どもが見えてくる~

日時: 10月19日 (土)
10:00~12:00
場所: たかつガーデン「オリーブ」

講師: 宮本 郷子先生
(龍谷大学社会学部特任教授・元大阪府内小学校教諭)
「乳児期前半頃(0歳~1歳半頃)の発達について」



※詳しくはチラシをご覧ください。
申込・問合せは大障教まで。



熱心に話を聞く参加者

参加者からは、「ろう学校

送ることができるとあって素晴らしいなと思いました。近山先生の教材がおもしろくない!という話は、日頃の自分の授業を振り返るよいきっかけとなりました。興味をもってもらう授業をつくっていききたいです」

「先生方のたいへんさ、たのしい授業、寄宿舎のとりくみ、勉強になりました」

「ぜひ、また次の交流会を企画しましょう」という提案があり、お聞きとなりました。
(だいせん聴覚高等支援分会 藤田みのり)